



「弱い者に寄り添って」

ブラジル宣教のためのお祈りとご支援を感謝申し上げます。首都ブラジリアは、朝晩心地よい秋風を感じながら道端に咲くコスモスに季節の移り変わりを覚えています。日本の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

去る4月20日のイースター（パスコア）の礼拝では、教会の皆さまと復活の主イエスを覚え、この時代にあっても聖霊の励ましをいただき、主イエスにある「罪の赦し」を語り続けていくという教会の使命を確認いたしました。

復活祭 混沌の世に シャロームを

その翌日、ローマ教皇フランシスコの召天の報を受け、カトリック信者の多いブラジルでも連日ニュースで取り上げられています。イタリア系アルゼンチン人であったフランシスコは、教会は人を選び分ける「税関」ではなく「野戦病院」であらねばならぬと、就任当初より病人や貧者、社会から疎外されている人に寄り添う姿勢を貫かれ、自らも贅沢を避け、報酬は受け取っていなかったといえます。謙遜で飾らず隣人愛に富んだその生き方に主イエスの似姿を見る思いがしました。まさに「上に立つ者はしもべとなれ」に徹したカトリック教会のトップの姿でした。

先日私は、しばらく訪問できていなかったインクラ地区の日系一世の家庭を訪問しました。吉本さんは昨年末から舌癌を患い、苦しい闘病生活を送っておられました。その日は元気な笑顔を見せてくださり、みことばに耳を傾け、こちらの祈りに心を合わせ静かにアーメンと頷かれました。かつて秋田のミッションスクールで毎朝聖書を読んでいた吉本さんを主は覚え、語っておられるのでしょう。

また、野菜出荷の工場を経営する二宮さんも久しぶりの訪問を喜んでくださり、体調が優れないなかにも、聖書のことばに慰めを見出していると話してくださいました。日本語で話せる友人もみんな亡くなり、耳も遠くなって人の交わりに入るのも億劫になり、ただ聖書のことばだけが希望だと。ヨハネ1章の「ことばは神であった」を実感する日々だとも。弱い人々に寄り添うことができますように。



毎週のサッカー教室の中にも、弱さを抱えた子どもたちがいます。先日は、自閉症を持った女の子が、男の子の心ないひと言によって傷つき泣き出し、その場から出て行ってしまいました。唐突の出来事に、すぐさまふさふさしい対応ができず、迎えに来たお父さんに事情を説明し、こちらの至らなさをお詫びしました。お父さんは「違いを知って尊重すること」や、「傷つけた人には何らかのペナルティを与える厳しさ」も必要ではないかと話してくださいました。その後、コーチたちと話し合い今後の対策を祈る時を持ちました。私たちも学びつつの宣教の働きです。

ヴァルゼンボニータの書道教室も毎月続けていますが、4月は初めて一世の前添さんが参加されました。昔から書道や俳句を趣味とされてきましたが、3年前にご主人を亡くしてからは、家に閉じこもりがちになっていました。この日は娘さんと来られ、イースターにちなんで「復活」の二文字を書きました。前添さんの心身の回復を祈るとともに、ヴァルゼンボニータに住むすべての人々に「復活の主イエス」に対する信仰が与えられ、救いの喜びが湧き上がるように引き続き、お祈りとご支援をお願いいたします。



近況と祈りのお願い

- ・毎回の訪問や集会が、人々の救いと祝福につながるように。
- ・新学年を迎えた子どもたちの学びと成長のために。次男はブラジリア大学会計学部への進学が決まりました。お祈りに感謝。
- ・ブラジリア教会が御霊の一致のなかでさらに前進し、地域の祝福の源となっていくように。
- ・私たちの霊肉の健康と日々の安全、必要が満たされるように。

2025年 1-4月 献金のご報告と感謝

（＊4月は4/1-21日分まで）

指定献金: 1,071,716 円

現地支援: 268,800 円

合 計: 1,340,516 円

2025年も早3分の1が過ぎましたが、諸教会の皆さまからの尊いお献げものによって支えられていますことを心から感謝申し上げます。皆さまの祝福をもお祈りします。

2025年 献金目標額: 410万円

「浜田宣教師指定」300万円＋現地支援110万円（補正がありました）

日本同盟基督教団 ブラジル宣教師 浜田献・陽子／真理生・湧希・聖也・翔

住所: CEP 71705-024 Av.Contorno, Bloco 1125, casa 11, N.B. -DF BRASIL

E-mail: ken yokobrasil@gmail.com

献金先: 郵便振替 00120-5-142886 日本同盟基督教団事務所（「浜田宣教師指定」とご明記下さい）